

山村教授退官記念号発刊に当って：
山村勝郎先生の学風と業績
(山村勝郎教授退官記念号)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉井, 竜象 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/24049

山村教授退官記念号発刊に当って

—— 山村勝郎先生の学風と業績 ——

山村勝郎教授は、1990（平成2）年4月1日をもって金沢大学を定年退官されることになった。教授は23年3ヵ月の長きにわたり本学に在職され、教育、研究に尽されるとともに経済学部の創設と発展に並々ならぬ力を傾けてこられた。この記念号は、教授のこのような労に対し、また、日頃の学恩に感謝するために、教授に捧げるものである。

教授は、昭和23年、東京帝国大学法学部政治学学科を卒業後、大蔵省大臣官房文書課大蔵事務官に任官され、33年7月に同調査統計官に昇任され、主として日本財政史の研究に携わりながら、日本財政史関係資料の蒐集・整備及び分析業務において中心的な役割を果たされた。その間約3年半ほど（昭和37年2月から40年9月まで）日本貿易振興会バンコク・センターに出向された。本学へは41年6月法文学部助教授として着任され、財政学を担当、44年10月に、教授に昇任された。46年4月から48年3月まで、さらに53年4月から55年3月まで、2期4年にわたり経済学科長を勤め、学科の充実のために尽されるとともに、法文学部改組と経済学部創設のために尽力された。55年4月、経済学部創設とともに初代学部長に就任され、59年3月まで2期4年にわたり、創立間もない経済学部の基礎固めと発展のために文字通り心身を捧げられた。経済学部での教授の担当科目は財政学総論、日本財政論、財政学演習である。

さらに、59年4月からは評議員（61年3月まで）および人文社会科学総合大学院検討委員会法文経済学部特別小委員会委員長など数々の要職を歴任され、今日に至っている。

教授の財政学における研究の中心は、その経歴からも明らかのように、日本財政史におかれており、大蔵省財政史編集室編集の『昭和財政史』全18巻のうちの第2巻『財政機関』（昭和31年刊）、同第17巻『会計制度』（33年刊）、同第10巻『預金部・資金運用部資金』（55年刊）、同第6巻『政府関連機関』（59年刊）等の著書を始め、この分野で多数の貴重な業績を残されている。これ

らの諸業績にみられる注目すべき特質は、わが国の財政制度及び財政構造が特に第一次大戦以後における国際関係ならびに日本の政治経済体制の史的変遷のなかでどのように変貌を遂げてきたのか、その実態を実証的に明らかにしている点である。と同時に、各時代の経済政策の形成過程に及ぼした財政金融政策の意義を具体的に明らかにした点も学界で高い評価を得ている。

本学着任後、教授の研究領域は、低開発国における財政金融政策、地方財政論から、さらに環日本海域経済圏およびアジア経済開発論、北陸を中心とする地域経済開発論に及ぶきわめて広い領域にわたっている。これらの広範な研究活動において教授はご自身の研究業績はもちろんのこと、有能な研究組織者としてもまた資料吟味及び探索の専門家として、多くの後進を指導・育成され、その恩恵に浴した研究者が広く全国に輩出している。

教授は、専門の分野における研究活動に止まらず、北陸地域及び石川県における教育行政、労働行政、地方財政の発展のために多くの貢献をされている。例えば、昭和47年からは石川県教育委員を引き受けられ(51年3月まで)、48年からは北陸経済調査会常任理事および北陸経済研究所理事に就かれ、また、51年4月からは石川県地方最低賃金審議会委員、60年4月以降は同審議会会長及び労働基準審議会会長として、抜群の調整能力を発揮されている。その功績により最近、労働大臣感謝状を授与された。さらに、59年から北陸財務局国有財産(管理)審議会委員、61年からは金沢商業活動調整協議会会長、日本学術会議第三部経済研究地域体制連絡委員会委員、日本海国際学術会議(運営主体はアメリカ東西センター、国連大学、ソ連邦科学アカデミー)委員を勤められ、国際的視野から地域経済の発展のために寄与されている。

そのほか、環日本海域国際シンポジウム(昭和59年)およびアジア・ウィーク・イン・石川(平成1年)の実行委員会の中心メンバーとして、その成功に尽力された。このように教授は、広い活動領域にわたって文字通り八面六臂の活躍をされている。

教授の退官は、われわれとして一沫の寂しさを禁じえない。しかし、教授はいまなお活気に満ち、仕事への情熱をかき立てておられるようである。今後とも、教授が健康に留意され、ますますご活躍されることを祈って止まない。それとともに、これからも従来と変らぬご指導をお願いする。この記念

号は、そうしたわれわれの気持の一端としてお受け願いたいと思う。

金沢大学経済学部長 玉井龍象